

第六次大野市総合計画基本構想（案）に係るパブリックコメントの結果について

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 案件名 第六次大野市総合計画基本構想（案）について
- (2) 募集期間 令和2年4月1日（水）から4月16日（木）までの16日間
- (3) 意見提出状況 提出意見：23件（45項目）、提出者：16人、提出方法：書面17件・電子メール6件

2 意見の概要とその意見に対する市の考え方

番号	意見の概要	市の考え方	関係分野
1	① 第3章に「全ての人」、「あらゆる人々」、「誰もが」、「みんなが」と複数の記載がある。 大野市民一人ひとりが担う重要な立場にあることから、「だれもが」で統一して、明確なメッセージとして伝えてはどうか。	ご意見を参考に各基本目標における記載内容を見直し、「誰もが」に統一します。	(文言修正)
2	② 「地域づくり」分野で、これまで培ってきた人のつながりを大切に、次世代につないでいくこと、併せて関係人口創出など外部とつながることで大野市という地域を作っていくとうたっている。 そうであるなら、表題は「みんながつながり」ではなく、「人のつながりを大切に」ではないか。地域内での人のつながり、地域外との人のつながりを大切にする地域がある自治体が生き残っていくのではないか。「みんながつながり」では、地域づくりとどのように連動するか伝わらないのではないか。	ご意見のとおり、地域づくり分野では、地域住民のつながりによって様々な地域課題の解決に取り組み、活力のある地域を次世代に継承することの重要性が述べられています。 地域内での人のつながり、地域外との人のつながりを大切にするためには、地域住民の主体性や積極性が鍵となります。 ご意見を参考に、地域づくり分野の趣旨を改めて確認し、基本目標の一部を「みんながつながり」から「みんなでつながり」に修正します。	(文言修正)

3	③	消滅自治体の一つにカウントされている大野市にとって、自治体を「経営」する手腕が問われている。その中で、「結の人」「結の人とまち」という聞きなれない言葉を「持続的に支える自治体経営」という言葉につなげることで、誰に何を伝えたいのか読み取れない表題となってしまっている。「結の人とまちを持続的に支える」は不要ではないか。 列記された5つの分野に対して、行政としてのスタンス、職員の責任領域を明確にするのであれば「協働と挑戦を支える自治体経営」とか「持続可能な自治体経営と協働のまち」といった分かりやすいメッセージが必要ではないか。今後10年間に取り組む方向性が見えないため、分かりやすいメッセージに変えてほしい。 あと、3段落目「また、少子化や高齢化が進み、非常に厳しい状況に対応」とあるが、何が非常に厳しいのか、どのような職員の育成を目指すのか、明確にしてほしい。	本市では、ブランドキャッチコピーとして「結の故郷 越前おおの」を打ち出しており、このキャッチコピーは本市のブランド化を進める上で重要な役割を担っています。 一方で、本基本構想の中では「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」という将来像を掲げています。まちづくりを進める上で人や地域のつながりが重要であることを強調するため「結のまち」という言葉としました。 ご意見を参考に、将来像と整合性を図るとともに違和感のない表記とするため、基本目標の一部を「結の人とまちを」から「結のまちを」に修正します。 また、3段落目の表記に関するご意見に対しては、「少子化や高齢化が進み、非常に厳しい状況」を、「少子化や高齢化による非常に厳しい状況」と修正します。 合わせて、P 1 20 行目「今後 10 年間に人口減少と少子化、高齢化が進み、非常に厳しい状況においても」から「今後 10 年間に人口減少と少子化、高齢化が進む非常に厳しい状況においても」と修正します。	(文言修正)
4	④	人口動態、社会変化などの変動要素が極めて大きい中、総合計画の期間を10年とするのは、長過ぎではないか。	これまでの大野市総合計画を参考としながら、第六次大野市総合計画に取り入れることとしている2030年までに達成すべき国際目標のSDGsも考慮し、計画期間を令和3（2021）年度から令和12年（2030年）度までの10年間としました。 基本構想の実現に向けた具体的な施策を示す基	全体

		本計画は、中期的な観点で策定し、計画期間の中間で見直していきたいと考えています。	
⑤	第五次総合計画の総括を第六次の基本構想にどう反映したのかよく見えない。思い切った大胆な改革を期待する。	これまでに実施した市民アンケートや地区別ワークショップを通して第五次大野市総合計画の成果や課題を洗い出し、各界各層の代表者らによる審議会や幹事会で議論を重ねてきました。 その結果、基本構想において、今後、特に力を入れるべき施策の方向性について、現在の施策体系や行政組織にとらわれることなく、六つの基本目標分野を設けました。 今後も、基本計画に関する議論の中で、具体的な施策を検討していきます。	全体
⑥	昨年実施した地区別ワークショップは、第五次計画の判定会に終始し、本来のワークショップとは程遠かった。今後ワークショップなど計画するのであれば、進め方や参加者層、まとめ方など再考していただきたい。	昨年度に実施した地区別ワークショップは、これまでにない新たな観点や手法を取り入れたこともあり、課題もありました。 また、地区ごとに参加者数や参加者層が異なり、ワークショップに対する満足度にも大きな差がありました。 今回得られた成果と課題、ノウハウを基に、今後の基本計画策定の際に市民の皆様の声を聞く場を設けるよう努めていきます。	全体
⑦	計画策定の過程で意思決定の手順を明確にし、市民参加方法への工夫と気配りを大事にしてほしい。 行政と市民との情報発信・共有が必要である。	第六次大野市総合計画の策定にあたり、市民の声を聞くこと、それをもとに丁寧な議論を交わすこと、その内容をホームページで広く公開することを大切にしてきました。 また、これまでの市民アンケートや地区別ワークショップでいただいたご意見から、市政運営には市民と行政との情報共有や協働が必要不可欠な	行政経営

		ことを再認識し、基本目標の「行政経営」分野で、その重要性や目指す方向性を示しています。	
⑧	「基本構想」から「基本計画」へと進んでいく中で、計画の柱や具体的な計画、目標値が明らかになれば、さらにイメージアップが図られ、これに対するパブリックコメントが重要となるが、スケジュールや取扱いはどのように考えているのか。	令和２年度内に、基本構想を実現するための施策をまとめた基本計画の策定を目指しています。 その内容については、全庁体制で検討するとともに幹事会で議論を深め、審議会において基本計画の素案がまとまり次第、パブリックコメントを実施します。今回同様、いただいた意見に対し、考え方をご説明するとともに、必要に応じ計画の内容を修正します。 基本計画に関するパブリックコメントは、現在のところ令和２年 11 月頃の実施を予定しています。	全体
⑨	将来像に「住み続けたい結いのまち」を据えているが、市民アンケート結果では「ずっと住み続けたい」が、この 10 年間で 18%も減少し、永住希望者が３割に満たない事を厳しく受け止めなければならない。	人口減少と少子化・高齢化が進んでいる現在、市や地区、自治会の将来に対する不安などが表れた結果として重く受け止め、誰もが住み続けたいなるまちづくりの重要性を、将来像だけでなく基本構想全体に盛り込みました。 基本計画の策定においても、この方針に基づき検討を進めていきます。	全体
⑩	「子育て支援の住み良いまち大野」を最優先の政策ビジョンにとらえ、大胆な財政投資、市政運営に転換すべきである。この点、今年の予算措置は評価するが、大野市ならではの更なる英断を期待する。	子育て世代に対するさまざまな面からの支援を喫緊の課題とし、令和２年度当初予算において「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を打ち出しました。 令和２年度における基本計画に関する検討や、令和３年度からの施策展開に当たっては、将来に渡り持続可能なまちづくりを進めるため、更なる選択と集中に努めていきます。	こども 行政経営

5	⑪	将来の人口見通しは、研究所の推計値よりもっと厳しいシビアな数になると見ておかねばならない。特に生産年齢人口の急減と年少人口の漸減がより深刻になり過疎化が急激に進み、あらゆる分野での人口減少対策が喫緊の課題である。	市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計とほぼ同じ推移をたどっています。人口減少、特に生産年齢人口の減少が進展する中で、持続可能な地域をつくり上げるために、令和2年度に大野市人口ビジョンの見直しと、人口減少対策に関する大野市総合戦略の改定を予定しており、あらゆる分野での人口減少対策に取り組んでいきます。	全体
6	⑫	地下水をはじめ豊かな自然環境の活用、保全、開発と「住みやすく住み続けたいまちづくり」がマッチせず、その活用や開発と居住ニーズ、観光誘客の戦略が好循環する「人を呼ぶ仕掛け」の強化が求められる。	中部縦貫自動車道の整備などにより、生活環境の変化が予測されますが、自然環境と開発の調和を図りながら、大野市の誇りである豊かな自然を将来に渡って守り続け、活性化に向けた「人を呼ぶ仕掛け」に努めていきます。	地域経済 くらし環境
7	⑬	今年度から実施の「子育て世代にやさしい助成」は魅力的だが、子育て支援・施策が定着し、継続していくには永続的な財政面での裏打ちが必須となる。 その一つが、経済的支援である。小中学校給食費の「完全無料化」が最も有効な支援策ではないか。 その二つは、子育ての人的支援である。経験豊かで沢山の知恵を持った祖父母世代に「シニアバンク・ちえぶくろ（仮）」に登録していただき、「みんなで育て、見守る、子育ての大野」を地域社会全体で支えていく仕組みをシニア層の多い大野で創り上げれば、子育て世代には喜ばれ、子ども達も将来大野に住み続ける決定的な条件にもなると思う。	大野市では、若い人たちが大野に住んで結婚し、子育てしたくなるよう、令和2年度から、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を打ち出し、若者支援、子育て支援を重点的に取り組みます。 ご提案いただいた、小中学校の給食費の「完全無料化」についてですが、現在、大野市では第3子以降の小中学校の給食費を無料としており、県内でトップクラスの支援内容となっています。 子育てにおける経済的・人的支援については、今後の基本計画を策定する過程で審議会や幹事会でのご意見をお聞きしながら、有効な施策を検討していきます。	こども

	⑭ 超高齢少子社会を迎える中で、半数を占める高齢者の存在は大変貴重であり、「長寿を心から喜びあえる社会、地域づくり」が行政の理想である。 スポーツ振興で「元気なまちづくり」を目指し、市民総参加の健康増進施策、トップアスリート（卵）の養成、支援等で盛り上げたい。 役所内の「感染症対策」担当を整備強化する必要がある。	「健幸で自分らしく暮らせるまち」を基本目標とし、全ての人が健康で生きがいを持ち、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができる社会づくりを目指すとともに、健康づくりのためだけでなく、トップアスリートを目指すことができるようなスポーツの振興について検討していきます。 感染症対策については、国や県と連携し、市としても専門部署を中心に全庁体制で市民の安全を守るための対策を引き続きとっていきます。	健幸福祉
	⑮ 大野が保有する、ありとあらゆる有形・無形の財産、素材、タレント等を総結集した地域活性化策を「オール大野」で検討すべきである。その際、中核となる人財の登用、確保が急務であり、即戦力となる社会人枠の拡大も必要である。 あらゆる世代の意欲のある人がいつまでも働ける「雇用の場」を創設することが最優先である。 地域経済の活性化のため、産・学・官で共同運営や事業化をめざし、住民サービスの向上を図らねばならない。	「歴史・風土と新たな強みを活かした活力あるまち」を基本目標に、中部縦貫自動車道の県内全線開通をはじめとする、人の交流や物流の拡大、Society5.0 の実現に向けた動きなどの外部環境の変化をチャンスと捉え、「越前おおのブランド戦略」のもと磨き上げてきた、大野市が誇る魅力ある資源を売り出していくほか、IoT や AI の活用も含めた市内事業所の活動支援、企業誘致を進めることによる働く環境の整備などにより、市内産業の振興に取り組みます。 これらを進めるための人財確保や体制を含めた具体的な方策については、基本計画において検討していきます。	地域経済 行政経営
8	⑯ 豊かな自然環境と安心して暮らせる気候、風土、市民性が最大の売りである大野の魅力をさらに引き上げ、「くらし・環境・ひとにやさしいまちづくり」をアピールして、定住者・移住者の増大など居住人口を維持拡大すること。	「豊かな自然の中で快適に暮らせるまち」を基本目標に、大野市の豊かな自然環境を将来にわたって守りながら市民が快適に生活できるような生活環境の整備を行い、居住人口の維持拡大の増加につながるよう、暮らしやすく魅力的なまちづくりを進めていきます。	くらし環境

	⑰	区長会（各地区）にどこまで行政上の任務役割があるのか、行政側はどこまで求めているのか、その意向が各地区住民まで伝わっているのかなど、正直疑問である。 行政側も区長会や議会との意見交換だけでは不十分であり、市民レベルへの情報共有のあり方、市民の総意を汲み取る方策を検討願う。	「みんながつながり地域が生き生きと輝くまち」を基本目標に、公民館を中心とした地域活動の活性化について検討していきます。 また、「結の人とまちを持続的に支える自治体経営」を基本目標とし、さまざまな媒体を活用した市政情報の発信や、若者や女性など幅広い層が市政に参画できる機会を増やすよう取り組みます。	地域づくり 行政経営
	⑱	健全な財政運営は基本であり、行政監視機能も重要で、客観的にチェックできる委員の人選が肝要である。 一般職の採用にあたっては、有能な人財の採用、確保に努め、特別職・各種審議会委員等については、幅広い角度からの公平・公正な人選が要求される。 各種選挙の投票率が低調で、政治に対する関心度の低さ、特に若年層の投票率が極端に低く、深刻な課題の一つであるため、「開かれた議会改革」の一環として、多くの市民が傍聴参加できる工夫（LIVE 中継、夜間・休日議会など）をはじめ、傍聴者への配布資料や討論方法など検討、工夫が必要である。また、政治分野での女性の参画が進んでいないため、広報・啓発を行い、若者や女性が多く参画できる環境づくりや人材育成に努めなければならない。	「こども」分野から「地域づくり」分野の基本目標に向けての活動を、行政が下支えするため、「行政経営」分野を設けました。行政の効率化と財政の健全化に加え、事業の選択と集中を図ることとし、具体的には基本計画において検討していきます。 また、全ての分野において若者や女性の活躍は欠かせないことから、こちらについても、基本計画において検討していきます。	行政経営
9	⑲	「こども」分野を第1の項目に挙げてきたことはすばらしいと思うが、それだけでは大野の未来は明るく拓けるとは思わない。 子どもであっても、1つの人格を持った人間で	子どもへの「社会の一員として活躍させる場の提供」については、4段落目、「家庭や地域、保育所、認定こども園、学校の連携を強化し、一丸となって、子どもの健やかな成長を支えていきま	こども

	あり、大人が大事に守ってやるべき存在であると同時に、大人たちと一緒に社会の一員として社会に貢献するべきだと思う。 そこで、1行目の「若い世代が～結婚や子育てをすることができ、」までを省き、【大野市の未来を拓く大野っ子が充実した保育・教育環境の中で時代に沿った新しい教育・自然や地域の特性を生かした教育・子どもの確かな学力や夢に挑戦する力・ふるさとを愛する心を育めるよう社会全体で支えていくことが重要です。それと共に子ども達の目を社会に向けさせ、社会の一員として活躍させる場を提供できるよう、家庭・地域・保育園・認定こども園・高齢施設・学校などと連携を強化し一丸となって子どもの成長を支えていきます。】と、してはどうか。 この後に【若い世代が大野市で希望をもって結婚や子育てをすることができ、働きながらもゆとりをもって子育てができる環境や子どもを見守る体制の充実、子育ての不安や悩みに対する相談・支援体制の強化に取り組みます。】と、親世代への取り組みをもってきた方が良いと思う。	す。」に含まれているものと考えており、具体的には基本計画において検討していきます。	
⑳	女性活躍の視点に欠けているように思う。子どもを産めるのは女性だが、男性も共に協力していかなくは、人口減少の中、働き手が足りなくなる。子育てと共に女性にもこれからは社会に出て、その能力を生かせるように、ここで大野市としての視点を述べてほしい。	「こども」分野から「行政経営」分野まで、全ての分野において女性の活躍は欠かせません。 女性が活躍する具体的な方策については、基本計画において検討していきます。	全体

	⑳	行政経営と言いながら、中身を読むと、市民の皆さんと共に市政運営に取り組みたいという趣旨だと思う。経営と運営は違う。経営はリーダーがいて、継続的・計画的に事業を管理運営することだと思う。経営ならば市長の強い意志のもと、職員をシナリオ通り動かし、一定の収益・生産性をあげなければならない。市民と協働なんてありえない。大野市が財政難の今、経営という発想で市政に取り組むならば、今一度考え直すべきところがあるように思う。	ご指摘のとおり経営と運営は違います。 これからの行政は、民間の経営手法も取り入れて、市民サービスや市民福祉の向上のため、成果に重点を置いた行政経営の発想による活動が重要です。最終的にはトップの判断が必要になりますが、市民の求める行政サービスを的確に把握し、市民ニーズに適切に対処するためには、市政情報の発信と、幅広い層の市政への参画機会の増加などによる市民との協働が不可欠なものと考えています。	行政経営
10	㉑	〔医療について〕 大野市には、土日祝日に休日急患診療所にて、内科・外科・小児科と専門の先生が常駐しており、尚且つ、夜の９時まで診察してもらい、子どもからお年寄りまで大変安心できる環境下にあると思う。 〔福祉について〕 特養の待機者が多く、特に病院には長く入院できずに退院を迫られている家族をみると、胸が痛くなる。認知症があると、なおさら家族に負担がかかり、在宅で介護したくてもできない現状であると思う。そのような現状からフレイル予防の推進が掲げられていると思うが、専門職を活用して地域でフレイル予防講習会を開催してほしい。公民館や地区のセンターでの開催の機会が多くなると、より効果があると思う。	「健幸で自分らしく暮らせるまち」を基本目標に、地域医療体制の充実と、健康寿命の延伸を図るため、基本計画において具体的に検討していきます。	健幸福祉

	②③	他市では、複式の小学校の側にも児童館の整備がなされ、児童館の職員も市の職員として採用されている。利用時間も長く、夏休みも引き続き利用できる。私の子どもが小学１年生になった時、放課後児童クラブを利用していたが、利用時間が５時半であり、どうしても働いていると迎えにいかず、実家の祖父母の協力を得て、何とか利用することができた。また、夏休みなどの長期休暇には、家から離れた児童館まで連れていかなければならず、とても大変な思いをした。小さい地区でも、子どもが安心して過ごすことができるよう、見直しをして頂きたい。少子化ではあるが、子どもを地域で見守り、安全に安定した生活ができる環境の整備をお願いしたい。	「未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち」を基本目標に、働きながら子育てができる環境整備について、基本計画において具体的に検討していきます。	こども
11	②④	第３章基本目標の「地域づくり」分野で、「公民館を中心に」とあるが、現状の体制では作業量に耐えられないと思う。公民館の機能強化をしていただき、取組をお願いしたい。	令和２年度に地域支援を担当する地域振興室の体制を強化しましたので、今後さらに公民館と連携を深め、地域課題の解決に取り組んでいきます。 具体的な施策は基本計画において検討していきます。	地域づくり 行政経営
12	②⑤	各地区の住民から出されたワークショップの意見について、実行可能なものは実現してほしい。 人口を増やす、稼ぐ行政と地域づくり、人づくりをしてほしい。	地区別ワークショップでの意見や市民、中高生、ゆかりのある方、移住者を対象にしたアンケートの結果については、全ての部局において共有しており、施策の参考としています。	全体
	②⑥	市民の意見が反映されていない計画であり、白紙に戻してください。	地区別ワークショップや市民等を対象としたアンケートでの意見については、基本構想（案）を策定するための審議会、幹事会においてお示しし、これらの意見を踏まえた上で基本構想（案）を策定いただきました。	全体

			今後、基本計画を策定していく中で、幹事会、審議会において、これらの意見を改めて参考としながら議論を進めていただきたいと考えています。	
13	㉓	各アンケート結果を踏まえた基本構想であるとは思いますが、これを市民に見てもらい何を求めているのか？ 実現に向けて様々な事を進めていくには市長の強いリーダーシップが必要だと思う。 市職員には公務員の立場にあぐらをかいている人が多いのでは。 若い民間の意見を多く取り入れることで目標等の達成が見えてくるのではないか。 市長自ら職員や委員をスカウトされてはどうか。	ご意見として承ります。	行政経営
14	㉔	時代に沿った新しい教育は、その時代を生きるために必要なとても大事なことである。時代に沿った新しい教育というのは、むしろ今まで過去の生物を守り救ってきたものの中から未来へつながるものを再確認し、現代を生きている人の努力で未来へつないでいくような教育課程と内容が必要だと思う。今、新型コロナウイルスに直面して思い知らされている。 今年のような新型コロナウイルスの深刻な危機の中で、自分たちだけの対策や予防に取り組むのではなく、発想を 180 度転換して、自分以外の人を助ける、つまり利他主義に価値を置くことが大切で、このことが自分を含めた全員を助ける、また	ご意見として承ります。 基本計画の検討における参考とさせていただきます。	こども

		大きな不幸を招かないことだと思う。それには、競争（切磋琢磨）より、協力精神が最も大切となる。このような協力精神で活動してくれるような子どもを育てるということは、教育活動、人間活動の面に当てはまる。一人一人が生まれ持ったものを本人自身に育ててもらい支援をする教育、つまり学校教育は一人一人の人間が自分の命を生きる基本を同時代の人たちと共に学ぶ人間ベースアップセンターとなるべきだと思う。		
15	㊸	大野市のすばらしい自然と環境の中で育ってほしい。自然の恵み、偉大さ、恐怖、想像を絶するものに飛び込む教育のプログラムを組んだら、本当に素晴らしい一人一人比べることのできない子どもたちが育ってくれるのではないか。グローバル化、IT など、人工的に作られてきた産物には本当に驚かされ、それらに感謝したいこともいっぱいあるが、怖いものもいっぱいである。 生まれてきてくれた一人一人の子どもたちが社会的に、また人として不幸でなければよい、不幸でないことに平等であってほしいと願っている。幼児教育、学校教育、社会教育、その他教育と名の付くものすべてにおいて最低限度必要なことを授けてあげてほしい。 あとは一人一人の生きる意志がお互いに尊重し合って、お互いを認め合って調整していこうとする努力で自分たちを守ってほしい。一人一人の生きる意志が守られるような適度な規模の学校が大野市のあちこちにあって、地域で生き抜いてほし	いただいたご意見は、第六次大野市総合計画基本計画とともに、今後の教育に関する各種個別計画などの検討における参考とさせていただきます。	こども

		い。大規模な学校に大人の考え、その時代のみの考えでまとめすぎないでほしい。		
16	㊸	第六次大野市総合計画基本構想（案）を一読して、これまでの総合計画と似通っていると思う。第五次までの総合計画で達成できたこと、できなかったならばその要因を検証することが大切である。数値目標をしっかりと決め、市民と協働して達成度を毎年確認していく。市民が実感しないことには、どんな計画も画餅にすぎない。 コロナウイルスで、世の中の動きが予測不能になっている。こんな時だからこそ、大野市民による大野市民のための、実現可能な構想を立案する必要がある。将来像実現のための6つの基本目標は、相互に関連性を持ち、市民が安心して生活できる大野市にするため、必要不可欠なものである。実現するための優先順位をつけ、経済的基盤を盤石にしていかなければならない。限りある予算をどのように配分していくのか、示されないと市民は安心できない。 特定の権力者によって市政を恣にさせてはならない。旧体質を払拭する手立てを盛り込むことも必要ではないか。	これまでに実施した市民アンケートや地区別ワークショップを通して第五次大野市総合計画の成果や課題を洗い出し、各界各層の代表者らによる審議会や幹事会で議論を重ねてきました。 その結果、基本構想において、今後、特に力を入れるべき施策の方向性について、現在の施策体系や行政組織にとらわれることなく、「こども」分野から「地域づくり」分野の基本目標に向けての活動を、行政が下支えするため、「行政経営」分野を設け、行政の効率化と財政の健全化に加え、事業の選択と集中を図ります。 「選択と集中」の一例として、今年度は子育て世代に対するさまざまな面からの支援を喫緊の課題とし、令和2年度当初予算において「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を打ち出しました。 令和2年度における基本計画に関する検討や、令和3年度からの施策展開に当たっては、将来に渡り持続可能なまちづくりを進めるため、更なる選択と集中に努めていきます。	全体
	㊹	将来の見通しの中の「2 土地利用」について、耕す人もいない田畑の有効活用を早急に考えてほしい。農業林業振興課に相談しても、良い解決策は見つからない。	第六次大野市総合計画基本計画だけでなく、農業に関する各種個別計画の検討における参考とさせていただきます。	地域経済

17	㉔	私たちが小さいころに比べて、今はずいぶんと子どもが減っている。今の若者たちに子どもをつくれと言っても、今の時代、色々と考え方や社会が変わっており、昔のように子どもをたくさん持つことは難しいと思う。 今いる子どもたち、今から生まれてくる子どもたちを大切にしていきたい。	「未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち」を基本目標に、充実した保育・教育環境の充実とともに、安心して子育てができる環境づくりについて、基本計画の中で具体的に検討していきます。	こども
18	㉕	行政の効率化と財政の健全化をさらに推進するとともに、選択と集中による市民ニーズに応じた事業展開につなげるとしているが、具体的に何をするのかわからない。具体的に何をしていくのか、細かく書くべき。	具体的には、基本計画において検討していきます。	全体
19	㉖	若者が地元で就職をしようと思っても若者が希望するような仕事がなく、結局都会に行ってしまう。大会社とかITの会社とかいきなりはムリだと思うので、小さくてもおしゃれな魅力ある企業を育ててほしい。	若い世代にも魅力的な働く場所を創出するための施策について、具体的には基本計画において検討していきます。	地域経済
20	㉗	小学校や中学校では、ふるさと教育で郷土を知り郷土を愛する心を育んでいるが、高校生になると地域との関わりも少なくなり、そして、進学して大野を離れてしまう。それぞれの人生で致し方ないとは思いますが、できれば、大野で育てた子供たちが大野に戻ってくるような政策や教育をお願いしたい。	地域への愛着心を高めるような施策について、具体的には基本計画において検討していきます。	こども 地域づくり
21	㉘	1年生の時に、私が未来の市長コンテストに参加したが、発表まで大変でした。 しかし、大野市のいろいろな人にインタビューでき、私が知らなかった大野市を見つけられてよ	わたしが未来の市長提案事業では、高校生の郷土への愛着やまちづくりへの参加意識の醸成を図ることを目的の一つとしています。高校生だけでなく、若者に郷土への愛着をもってもらう取り組	こども 地域づくり

		かった。 もっともっと、大野市のことを知ることができるようなことを考えてもらおうと、みんなが大野に戻ってくるようになると思う。	みについて、基本計画において具体的に検討していきます。	
22	③⑦	人生１００年時代と言われても、若い者に迷惑をかけないように生きていくのがやっと。とにかく安心してお医者さんにかかるよう充実してほしい。	「健幸で自分らしく暮らせるまち」を基本目標とし、高齢になっても安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう、地域医療体制の充実や健康寿命の延伸などについて、基本計画において具体的に検討していきます。	健幸福祉
23	③⑧	全てに目を通したが、今までに聞いた言葉が連なるばかりで、今後厳しくなる１０年間をしっかりと捉えて書かれた構想なのか不安になった。	いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の基本計画に関する議論の中で、具体的な施策を検討していきます。	全体
	③⑨	五次の取組みで成功したこと、問題点を述べることで六次で取り組まねばならないことが見えてくると考える。それが第１章で全く書かれていない。書かれるべきであると考え。そうすると「ずっと住み続けたいまち」の形が見えてくるのではないか。	これまでに実施した市民アンケートや地区別ワークショップを通して第五次大野市総合計画の成果や課題を洗い出し、各界各層の代表者らによる審議会や幹事会で議論を重ねてきました。 その結果、基本構想において、今後、特に力を入れるべき施策の方向性について、現在の施策体系や行政組織にとらわれることなく、六つの基本目標分野を設けました。 今後も、基本計画に関する議論の中で、具体的な施策を検討していきます。	全体
	④⑩	人口については、人口減少について、１５行にわたって書いてあり、将来の見通しは５行のみである。分野については五次と変わらず、今後の１０年について不安ばかりが大きくなる。もっと切り込んだ内容が書かれるとよい。	人口減少については厳しい状況が予想されますが、令和２年度に大野市人口ビジョンの見直しと、人口減少対策に関する大野市総合戦略の改定を予定しており、あらゆる分野で人口減少対策に取り組んでいきます。	全体

④①	将来の見通しは、人口と土地利用での切り込みだけでよいのか。特に利用という表現が気になる。とても狭い考えのように思え、これが大野の将来の姿になっていくのか。	基本構想では人口と土地利用における見通しをたて、具体的な施策については、基本計画において検討していきます。 利用という表現は「国土利用計画法」でも使用されており、重要な資源である土地の機能を十分に生かして総合的かつ計画的に利用するための規定を定めています。	全体
④②	乳児に関わる文言が見あたらない。安心して出産できるよう打ち出して欲しい。	安心して出産できる環境の整備は重要と認識しており、具体的には基本計画において検討していきます。	健幸福祉 こども
④③	農業についてもっとどうあるべきかを書くと、若い世代にも後継者が出るのではないか。磨き上げに農林水産物では弱いのではないか。	現在、農業に限らず商工業・林業など様々な産業で後継者の育成等が課題となっており、それらを含めた産業の振興に取り組むことを「地域経済」分野に記載しています。具体的な施策については、基本計画において検討していきます。	地域経済
④④	行政の効率化は大変重要で、構想の中で全てに書かれている人口減少の割には、あっさりとした言葉で済ませている。もっと厳しい具体的な文言で。	すべての分野を下支えするものとして、「行政経営」分野を位置付けており、これまで取り組んできた行政の効率化と財政の健全化に加え、更に事業の選択と集中を図ることとし、基本計画において具体的に検討していきます。	行政経営
④⑤	特に力を入れていくものには太字にする。図式化してさっと理解できるものも入れると良い。	皆さまに理解していただきやすい総合計画となるよう、図形や字体など工夫していきたいと考えています。	(編集時に 検討)